

防災メモ

火山活動度レベルの導入について

気象庁では、今年 11 月 4 日から、浅間山、伊豆大島、雲仙岳、阿蘇山、桜島の 5 火山について、現在の火山活動状態を数字で示す火山活動度レベルを提供しています。

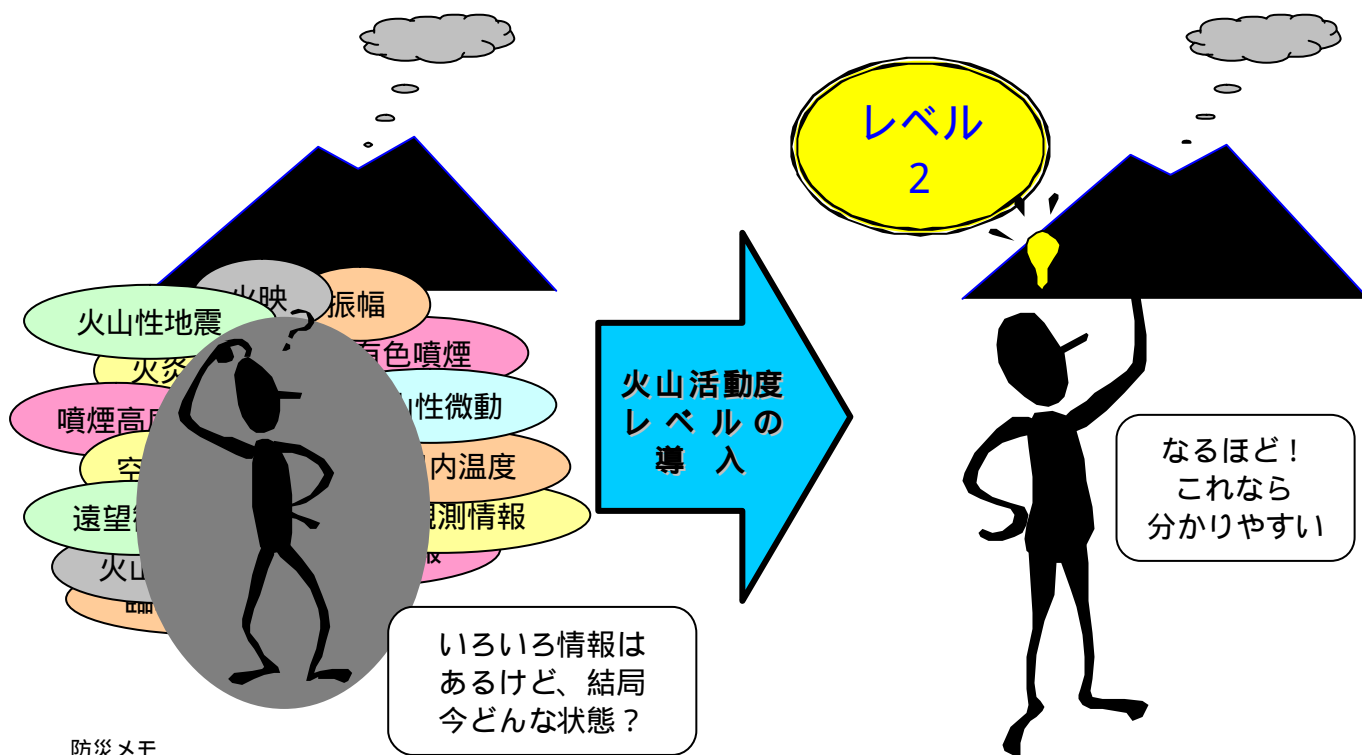
これまで、気象庁では火山活動の状況に応じて、火山情報(緊急火山情報、臨時火山情報、火山観測情報)を公表してきましたが、情報に書かれている火山の活動を示すデータは多種多様であり必ずしも分かり易いものとは言えないため火山活動の状況が把握しにくいとか、火山情報が頻発されると火山の活動は活発になったのか、そうでないのか分かりにくいとの指摘がありました。

そこで、火山活動の状況を端的に表す指標として、0～5 の 6 段階の火山活動度レベルを設定し、まず上記 5 火山について導入いたしました。火山活動度レベルは数字が大きくなるほど火山活動が活発であることを示します。次項に標準的な火山活動度レベルの区分けを示しますが、実際には各火山の特徴により異なりますので、来月以降、浅間山と伊豆大島の火山活動度レベルについて防災メモで解説いたします。

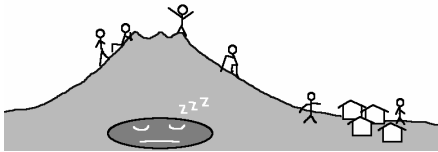
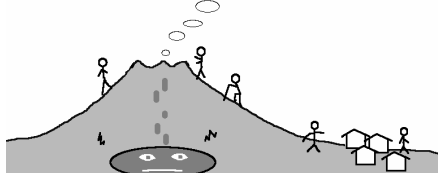
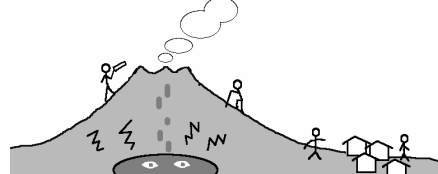
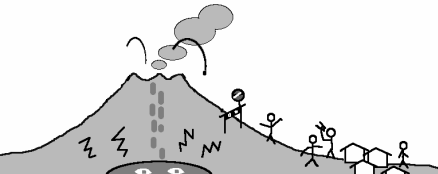
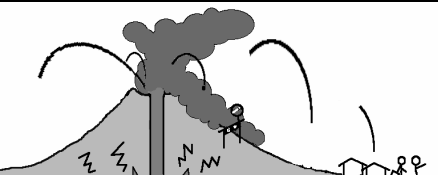
火山活動度レベルは、気象庁の火山監視・情報センターが得た火山に関する全てのデータを考慮して決定しますので、火山の活動状況は概ねその値で把握できるようになります。また、火山情報が頻発されても火山活動度レベルに注目すれば火山活動の変化について迷うことはありません。

火山活動度レベルは、火山情報、週間火山概況、火山活動解説資料、ホームページ(<http://www.jma.go.jp>)等、気象庁が火山活動についての情報を提供する際に常に付加して提供します。また、火山活動度レベルに変化があるときは速やかに火山情報で発表いたします。

気象庁では、今後、上記 5 火山以外の活火山についても火山活動度レベルの導入を順次進めていく予定です。また、火山活動度レベルが行政機関等の火山防災対応や、火山周辺に住まわれる皆さんの噴火への備えに反映していただけますよう努めてまいります。



火山活動度レベルの区分け

<u>レベル0</u> 長期間火山の活動の兆候がない。	
<u>レベル1</u> 静穏な火山活動。 噴火の兆候はない。	
<u>レベル2</u> やや活発な火山活動。 火山活動の状態を見守っていく必要がある。	
<u>レベル3</u> 小～中規模噴火活動等。 火山活動に十分注意する必要がある。	
<u>レベル4</u> 中～大規模噴火活動等。 火口から離れた地域にも影響の可能性があり、警戒が必要。	
<u>レベル5</u> 極めて大規模な噴火活動等。 広域で警戒が必要。	

- 火山の特徴に応じて火山毎に火山活動度レベルの設定は異なります。
- 火山活動度レベルが変化した場合は、原則として次のとおり火山情報で火山活動の状況をお知らせします。
 - ・ レベル1，2 への上昇： 火山観測情報を発表
 - ・ レベル3 への上昇： 臨時火山情報を発表
 - ・ レベル4，5 への上昇： 緊急火山情報を発表
 - ・ レベルの下降： 火山観測情報を発表
- 火山活動度レベルに変化がない場合でも、先に発表された火山情報を補うためや、火山活動に対する新たな警戒や注意を喚起するために火山情報を発表しますが、これにも火山活動度レベルは必ず付加します。なお、この場合、発表する火山情報の種類は状況により変わります。